

## 次代を担う子どもたちが希望の持てる「新たな京都」へ ～西脇知事と増田客員教授(元総務大臣)による対談～

講演① 西脇隆俊氏(京都府知事)「次代を担う子どもたちが希望の持てる「新たな京都」へ」

150年前の明治維新の頃、京都は度重なる戦火に見舞われ、町の1/3以上が消失した。さらに、東京奠都により人や産業が東京に移り、人口が2/3となるなど、危機的な状況に直面した。その時、先人たちが取り組んだのは、日本で最初の小学校の設置や後の京都大学となる第三高等中学校の誘致等の人づくりと、京都博覧会の開催や琵琶湖疏水の建設等の産業政策であった。

現在の京都も大きな危機に直面している。今後、本格化する人口減少と急速な高齢化の進行、女性の晩婚化等による出生数の減など、簡単に解決できる問題ではないが、知事就任後、公約の柱の一つに掲げた「子育て環境日本一」に向けて推進本部を設置し、全庁挙げて検討を重ねてきた。京都府としても、これまでいろいろと施策を実施してきているが、対応が遅れている分野として、企業の取組がポイントになるのではと考えている。働きやすい環境づくりのために、例えば、保育所への子どもの送り迎えができるよう時間休暇が容易に取れたり車での通勤を認めたり、職場の人の意識変革を行うなど、子育てに優しい企業を応援していくことが必要と考えている。保育所やNPO、地域団体と企業との連携や、工業団地内の企業間の協力による保育の取組への支援、病児保育の受け皿の拡大など、「子育て環境日本一への挑戦」を柱の一つとして、来年度予算を編成したところ。

また、京都産業は、伝統産業やハイテク企業、観光や文化など産業構造が多様で、バラエティに富んでいる。京都ならではの強みも多く、LINEの開発拠点が昨年8月に京都に設立されたり、大企業になっても京都に本社が残るなどしている。一方、学生が卒業後、京都で就職する人数が少ないことや、全国平均と比べて開業率が低いこと、逆に廃業率が高いなどの課題もあり、今年3月にグランドオープンする「京都経済センター」を核として、新しい産業政策を進めていきたい。

さらに、整備が整いつつある高速道路網等を産業の振興につなげるとともに、京都観光の次なる展開として、米マリオット・インターナショナル等による京都府内の道の駅への宿泊特化型ホテルの建設、2020年大河ドラマ『麒麟がくる』などの新しい動きを京都市以外の地域への観光客の周遊や、地域での観光消費額の増加につなげていきたい。

スポーツ・文化による未来の京都づくりも重要と考えており、文化庁の京都移転に伴うハード施設の整備だけでなく、文化アートのイベントの開催や文化財の修復現場の公開など、文化財の活用にも積極的に取り組みたい。

今秋に策定を予定している、府政運営の指針となる新総合計画では、夢のある将来ビジョンを提示できるよう作業を進めていきたい。

## 講演② 増田寛也氏（京都府立大学客員教授／元総務大臣）「Society5.0と地方創生」

地方創生を進めるにあたって、人口減少に歯止めをかけることと東京一極集中を是正するという2つの要素に働きかけることが重要。そのうち、最大の課題は人口減少で、持続可能性という視点で、人材・雇用、地域・街づくり、税制・社会保障等を総合的に検討することが必要で、時間軸を持ち、日本全体を俯瞰しながら取り組むことが求められる。また、AIやIoTの活用や若者が希望を持って生きていけるビジョンを提示することも必要と考える。

そのためには、「人口増加前提モデル」から「人口減少モデル」へのチェンジが必要で、人口の奪い合いではなく、長期の視点での自然増、「世界のどこでも働けます」と「この地でこそ生きたい」の2つを両立できる柔軟な働き方が可能な社会づくりも重要。地方創生の最も大切な点は、スタバやマクドナルドに代表される「いつでも、どこでも、誰にでも」のグローバルサービスから、道の駅のような「今だけ、ここだけ、あなただけ」のローカルサービスからを地域が独自に提供できるか。そのための解決のカギは、「しがらみ」と「横並び」を壊す、地方創生の「作り手」を育てる、人材、資金が自由に出入りする、開放的な地域経済づくり、「作る」より「伝える」に軸足を移すこと。

サイバー空間とフィジカル空間との融合が可能になる Society5.0 は、地域、年齢、性別、言語等による格差をなくし、多様で潜在的なニーズにきめ細かに対応したモノやサービスが提供できたり、経済的発展と社会的課題の解決に貢献でき、人々が快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる人間中心の社会を実現できるなど、多様な可能性を秘めている。頼りすぎることも問題だが、移動や人手不足など、これまで地方が抱えてきたハンデを一気に克服できる可能性があり、地方創生に必要な新しい要素である。そのためにも、皆さんにはデジタル人材に是非なあって欲しいし、新しいサービスを構想する力を育むことも必要。

## 対談

（増田）

京都府知事に就任して、想定どおりだったことと意外だったことは？

（西脇）

国で働いていた際、京都ゆかりの人とはしばしばお会いする機会があり、京都の動向は把握していたので、それほど意外なことはなかった。意外という点では、京都府庁の職員は非常にまじめだなと思った。

（増田）

今、小さな自治体では議員のなり手が少ないなど、二元代表制や民主主義の将来の危機にあるが、どう感じておられるか？

（西脇）

学生に期待することとして、現場の実情を把握することと書いたが、地域の実情を一

番知っているのは議員の皆さんであり、議員の役割は大変重要と感じている。

(増田)

今後、府民との関係をどう築こうと思われているか？

(西脇)

府は市町村と比べて直接行政が少ないが、当然、府民とのよりよい関係を築いていくことは重要であり、努力を続けていきたい。また、そのためには府民の皆さんに伝わりやすい表現で発信していくことも必要と考える。

(増田)

府内や他の都道府県との間で、広域連携をどのように進めていくつもりか？

(西脇)

私は、知事就任後、最初に登庁した際のあいさつで、職員に連携にこだわって欲しいと伝えた。府北部では京都府北部地域連携都市圏の取組が既に始まっている一方、南部は広域連携の取組が進んでいない。観光や世界的企業の誘致などには、自治体を越えた広域連携は絶対に必要と考えている。

## 学生質問

(質問1)

国と地方行政との関係でどういうところが変わってきたと思われるか。

(西脇)

以前と違い、地元の知事や市町村長が体を張ることによって、国の意向が必ずしも通らない時代になってきている。これは、国の仕事、地方の仕事という垣根がなくなってきており、地方自治体の重要性がさらに高まっているためだと思う。

(質問2)

ラグビーのワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックの開催など、国際交流の重要性がさらに高まっているが、京都に外国人を迎えるにあたり、これからどうしていったらよいと考えておられるのか。

(西脇)

大阪・関西万博の開催も決まり、これを好機としてとらえ、京都市外の地域にどう観光客に足を伸ばしてもらおうのか、また、京都市バスの混雑などの交通機関の問題の解決、文化財の保護から活用へというような施策を進めていきたい。

(質問2)

城陽市でのアウトレット建設の効果をどう見込んでいるか。

(西脇)

アウトレットだけでなく、周辺には物流施設が建設されるなど、高速道路網の整備に伴い周辺地域が活性化している。アウトレットを訪れた人が周辺地域にも訪れるようにもして、地域全体を発展させたいと考えている。

### **西脇知事から学生へのメッセージ**

皆さんもいずれ、就職の時期を迎えると思うが、新規採用者の3割が3年以内に辞めるというデータもある。自分の目でよくみて企業を選んで欲しい。また、人生100年時代も踏まえて、学生時代にいろいろな経験をして欲しい。